

ひょうご

県知協

NEWS

〈兵庫県知的障害者施設協会機関紙〉

発行 一般社団法人

兵庫県知的障害者施設協会

〒651-0062

神戸市中央区坂口通 2 丁目 1-1

兵庫県福祉センター5階 502 号室

TEL (078) 862-6026

FAX (078) 862-6082

E-mail: hyogo-kenchikyo@dance.ocn.ne.jp

発行責任者 蓬 萊 和 裕

印刷所 交友印刷株式会社

障害者福祉の新たな展開にむけて

一般社団法人兵庫県知的障害者施設協会 会長 蓬 萊 和 裕



いよいよ平成 30 年度の幕開けです。今年の 4 月は色々な意味で重要なスタートとなります。

まず障害福祉サービスはもちろん、医療や介護など 3 種類の報酬改定が 6 年に 1 度同時に行われるのがこの 4 月からです。また、障害者総合支援法（平成 25 年 4 月施行）について施行 3 年後の見直しに関する法律も同時に施行されます。その他、地方自治体が運用している「障害福祉計画」も 3 年に 1 度見直しされ、4 月から第 5 期がスタートします。介護保険法についても昨年改正され、その中で「共生型サービス」が位置付されましたが、施行はこの 4 月からです。

障害福祉サービスに関する報酬改定の主な内容は日本知的障害者福祉協会や厚生労働省のホームページにも掲載されていますが、全体として改定率は + 0.47% 増という結果でした。改定の詳細については紙面に限りがありますのでここでは述べませんが、平成 29 年度末までの経過措置とされていた食事提供体制加算がとりあえず今回継続されることになりました。また、新たなサービスとしては、①自立生活援助（支援施設や GH から地域での一人暮らしに移行した人を対象）の報酬の設定、②就労定着に向けた支援を行うサービス（一般就労へ移行した人で環境変化により課題が生じた人を対象）、③居宅訪問により児童発達支援を提供するサービス（重症心身障害児等であって児童発達支援等の障害児通所支援を受けるために外出することが困難な児童が対象）が創設されました。

もちろんサービスによっては報酬単価が減算されたものもありますので、全体としての評価を行うには難しい面がありますが、知的障害福祉団体だけでなく他の障害者団体とも一緒になって国に要望や働きかけを行った結果として、一定の成果が得られたのではと感じています。

今後の予算については全体のパイが変わらない中で、頑張っている施設とそうでない施設とで報酬面で差がつくことは明かです。しかし、私たちに課せられた課題はこのたびの報酬改定の検証とさらなる実態把握により、利用者にとってサービスの向上につながるものは何か、それを実現するには何が必要か等を真剣に検討していくことではないでしょうか。

平成 30 年度とは、そのような課題の整理を各施設や事業所が自ら行い、全国の障害関係団体とも連携しながら、国に対して必要な要望は必ず継続して行くという姿勢が問われる重要な年であると感じる次第です。

神戸地区の報告



事務局長 正 心 徹

神戸市知的障害者施設連盟の平成29年度の下半期は、定例となった事業を中心に行いました。以下に紹介してまいります。

1. 福祉関係機関・施設長研修会

- (1) 平成29年10月26日(木)～27日(金) 高知県(社福) 高知小鳩会あじさい園、徳島県(社福) 十字会博愛ヴィレッジを見学。

2. こうべ障害者音楽フェア2017 ジョイフルコンサート

- (1) 平成29年12月23日(土) 開催。
(2) 松端連盟会長が実行委員長となっており、連盟として、チケット50枚を購入。希望施設に配布した。

3. ふれあいステージ

- (1) 平成30年1月27日(土) 開催。約500名参加。職員部会より8名の応援協力。

4. ひっぱりリーグ'18(綱引き大会)への協力

- (1) 平成30年2月12日(月) 10:00～16:00 グリーンナアリーナ神戸
(2) 例年どおり、運営に協賛している

5. 研修会の開催「高齢・重度者の暮らしを支えて」(総合支援法と入所施設の今後の在り方)

※神戸市手つなぐ育成会との共催

- (1) 平成30年3月15日(木) 連盟会員向け・16日(金) 育成会会員向け
(2) 講師 (総合支援法と入所施設の今後の在り方)
国立のぞみの園 理事長 遠藤 浩 氏
地域支援部事業企画部管理課長 古川 慎治 氏
(3) 両日で、約100名以上の参加。

6. その他

- (1) 養護学校・特別支援学校進路指導主事との合同会議を4回開催し、空席状況アンケートを2回実施しました。
(2) 入所部会、通所部会を各2回開催しました。

次に、山口職員部会長以下、多数の部会役員の協力により成果をあげている、職員部会の活動を報告します。

1. 全体

- (1) 神戸市知的障害者施設連盟役員会、及び施設長会への出席
(2) 「共に歩む会」引率チームのサッカー大会、ソフトボール大会への送迎広報。
(3) 1月27日 手をつなぐ育成会と共催の「ふれあいステージ」スタッフとしての参加(入場者誘導・会場警備)。

2. 研修委員会

- (1) 11月28日(火) 職員研修(地域生活チャレンジ研修)
場 所：神戸市総合福祉センター 第5会議室
内容①：パネルディスカッション
「障害があっても地域で住み続けるために」～それぞれの役割を知ることから始めよう～
内容②：グループワーク
「関係機関の役割の理解について」
コーディネーター：濱口 直哉氏
東播磨圏域コーディネーター、地域支援センターあいあむセンター長
(2) 1月19日(金) 看護師、栄養士、支援員合同研修
場所：あすてっぶ神戸 セミナー室3
内容：摂食嚥下の基礎と食事ケアについて
講師：永来 努 氏 株式会社コンパス 代表取締役 言語聴覚士
(3) 2月15日(木) 栄養士研修
場所：ホシザキ阪神株式会社
内容：ソフト食勉強会「ソフトミール(高齢者向けソフト食)」を使用した調理実習

3. スポーツ委員会

- (1) 10月28日～30日 第17回全国障害者スポーツ大会「愛顔つなぐ えひめ大会」引率
(2) 1月5日(日) 職員フットサル大会 場所：北神戸田園スポーツ公園
(3) 3月10日(土) 絆リレー大会(予定)
場所：しあわせの村 多目的運動広場
内容：タイムレース・ぴったんこタイムレース

阪丹但地区の報告



監査 竹内 ゆかり

阪丹但地区では、平成 29 年度も「福祉・介護従事者キャリアアップ研修事業補助金」などを活用し研修会を 5 回開催してきました。

第 1 回	6 月 27 日	管理職・中堅職員研修 テーマ：「アンガーマネジメントについて ～自分自身の“怒り”を知り、職場で生かす～」 講 師：井上 泰世 氏（株式会社ナースハート）
第 2 回 第 3 回	9 月 26 日 10 月 17 日 (2 回シリーズ)	支援員研修 テーマ：「応用行動分析学（ABA）に基づいた行動の理解と支援方法」 講 師：藤田 昌也 氏（みどりトータルヘルス研究所）
第 4 回	1 月 30 日	事務職員研修 テーマ：「財務会計に関する正しい会計実務についてよりわかりやすく」 講 師：前原 啓二 氏（前原会計事務所）
第 5 回	2 月 24 日	テーマ：「発達障がいのある方の就労をすすめるために」 ～公開事例発表会 阪神福祉事業団と共催 講 師：高橋亜希子 氏（株式会社エンカレッジ京都）

今年度は阪丹但地区だけでなく、神戸、播但地区の方々にもご参加頂きました。他の地区の方との交流がもて、皆さんに参加して頂けて良かったと思います。今後も積極的な交流が持てるような工夫をして参りたいと思います。

それでは各研修会の報告させていただきます。第 1 回目は 87 号でご報告させて頂きましたので、割愛させていただきます。

第 2 回、第 3 回は応用行動分析学を連続で講義頂き、初回は基礎編ということで、発達障害者の理解と適切な関わり方について具体的に事例を上げて講義頂き、2 回目の応用編では具体的なワークを通して行動の整理を行いました。支援技術を高めることは利用者の為だけでなく、職員自身も成功体験から前向きに仕事に取り組むことが出来ればと助言を頂きました。受講後は参加の皆様からアンケートに沢山ご質問等を頂き、それに対して先生から丁寧にお返事を頂き繋がりが持てたことに感謝しております。

第 4 回財務研修では、今年度大きな制度改正等は無かったものの、経理面での処理が細くなってきたりしており、会計処理を行う上で誤りやすいことなど細やかに公認会計士からご説明頂きました。県社協の財務研修と日程が重なった事もあり、今後はその辺りの調整をしながら計画をしていきたいと思っています。

第 5 回は阪神福祉事業団と毎年共催で開催させて頂いており、これまでは自閉症支援をテーマに公開事例発表会を行っていましたが、今年度は障がい者の就労支援に関する事例発表会を行いました。それぞれの実践の中で工夫しながら進めておられる様子がよくわかり良かったと思います。

今年度県知協と地区の連携強化を図る為に会長をはじめ役員のおののが役割を持って進めて参りました。充分とは言えませんが、のじぎくスポーツ大会での課題なども挙げながら、次年度以降の方向性を出してきました。来年度も各事業所の情報交換や繋がりの持てるような企画を行って参りたいと思います。



 播淡地区の報告

職員代表会 会長 森本 隆義

播淡地区では、今年度もスポーツ、研修、研究、文化の4つの事業を開催致しました。

①スポーツ委員会

平成 29 年 5 月 26 日加古川運動公園陸上競技場にて第 29 回ばんたん親善運動会を実施しました。参加者 956 名で当日は天候にも恵まれ、参加された利用者の皆様も競技を楽しまれていました。

②研修委員会

毎年 2 回の研修会を企画し、第 1 回目は平成 29 年 7 月 7 日市川町文化センター ひまわりホールで社会福祉法人北摂杉の子会人材育成室 スーパーバイザー 堀内桂氏をお招きし、「強度行動障害 そのメカニズム～なぜ行動障害が起こるのか」という内容で、強度行動障害の障害特性の基本的な理解から、構造化・アセスメントの重要性を 98 名の参加者が問題行動解決のための支援の全体像を学びました。

第 2 回目は平成 29 年 11 月 10 日、神戸医療福祉大学で社会福祉学部 教授 井土睦雄氏にご講演を頂き、「障がいから学ぶ人権～利用者への支援と虐待の境界線をみつめる」という内容でご講義頂きました。65 名の参加者が人権擁護について深く考える実りある研修会であったと思います。

③研究委員会

平成 29 年 8 月 30 日姫路商工会議所にて、第 31 回播淡地区施設長・職員合同研修会を開催しました。今年度から会員施設の意見を踏まえて、一泊型研修から日帰り型研修へ試行的に変更して実施しました。「高齢障害者 65 歳問題について 障害福祉サービスと介護保険の関係について」「社会福祉法人制度改革について」を研修会のテーマとして、関西福祉大学 教授 谷口泰司氏にご講義頂き、参加者 104 名は知的障害福祉の方向性や新たな制度について学びました。

④文化委員会

平成 29 年 11 月 30 日、姫路市文化センターにて第 26 回ばんたん・ゆうあい文化祭を実施しました。参加者 998 名と大賑わいで、利用者ひとり一人がステージ上で生き生きと演技に夢中になり頑張っておられました。

各事業を取りまとめる委員長・副委員長の皆さんが計画的に委員会を運営して頂き、大きな問題もなく予定通り事業を実施することが出来ました。播淡地区においては、参加者が 1000 名近い事業もあり、各事業が滞りなく終えた事は、施設長会会長・副会長をはじめ、各委員の皆様の責任ある活動のお陰だと心からお礼を申し上げます。

各委員会ではすでに来年の検討を行っており、着々と準備を進めております。次年度もこの職員代表者会が活発に機能出来るように考え、副会長と共に盛り上げていきたいと考えております。ありがとうございました。

兵庫県知的障害者施設協会研修委員会 新任職員研修会

研修委員会 委員長 森井 計智

2月27日（火）に神戸市勤労会館にて、兵庫県知的障害者施設協会研修委員会による平成29年度新任職員研修会を開催いたしました。講師には当協会の人材確保委員会委員長、及び委員をお招きし、「新任職員の今とこれから」をテーマに、前半はシンポジウム、後半はグループワークという形で研修会を行っています。

前半のシンポジウムでは、委員長の辻井氏をコーディネーターに、各委員（島氏、川島氏、宮崎氏）より自身が新任職員であった頃の実体験を交えながら、参加者の新任職員に熱のこもった熱いメッセージを頂きました。宮崎氏からは、自身が新任職員だった頃にある利用者の親が亡くなられた時、その利用者の方と涙ながらに励まし合った話をお聞きし、やはり障がいのある方を「支援」する事が、私達障害者福祉人の根幹である事を再認識させられました。



後半のグループワークでは、「相手に好印象を与えられる職員に」というテーマで、各テーブルで「相談されやすい人」や「好印象を持たれやすい人」について議論しました。実際の場面に沿ったロールプレイも交えながら、自分自身がどういう職員に成長していくべきかが分かりやすく学べました。参加者も今勤務している職場での自身の支援や業務のあり方を振り返る事が出来る良い機会になったと思います。

今回の研修は、32名の参加者があり、そのほとんどが入職1～3年目の職員でした。これからの障害者福祉を担っていく方々へ、障害者福祉の魅力ややりがいをしっかりと伝えていく事が出来、この仕事を楽しいと思ってくれる研修会になったと思います。これからも研修委員会は人材育成や人材定着がはかれる研修会を企画していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



障害児者支援施設 就職フェア 2017

人材確保委員会 委員長 辻井 善弘

障害児者福祉人材不足を将来的な危機であると受け入れ、当協会の取組みとして初めての試みとなる障害児者福祉領域に特化した就職フェアを平成 29 年 11 月 4 日（土）に開催いたしました。

兵庫県施設保育士養成協議会のご協力をいただき、兵庫県知的障害者施設協会および神戸市知的障害者施設連盟に加盟する法人及び事業所を対象にブース出展参加を呼びかけ、29 法人が参加しました。

フェアの内容は、2 部構成で行い、第 1 部のトークセッションでは、コーディネーターに島 祐貴氏（福成会）、パネリストに小川 絢可氏（明桜会）、坂本 宏太氏（宝塚さざんか福祉会）、黒石 典伽氏（陽気会）4 名の皆様にご登壇いただき、障害児者福祉に従事することの魅力について語り合っていました。第 2 部では、参加法人によるブース出展を行い、各法人及び事業所をアピールする機会としました。



開催時期については、現 4 回生が集まりにくいことは承知しておりましたが、当委員会では、準備段階からフェアを次年度以降も継続的に実施するため、方法・感触を確かめる機会であることを意識し、まずは開催することを目的といたしました。

来場者数は、休日の中日であることも加わり 16 名にとどまりましたが、来場されている学生は大半が 3 年生であり、来年度の就職内定を視野に動いている本気の学生たちでした。

参加された 29 法人は、各々に工夫を凝らしたプレゼンテーションで会を盛り上げてくださいました。また、他の法人がどのような手法で新しい人材を確保しようとしているのか学び合う機会にもなったと実感します。

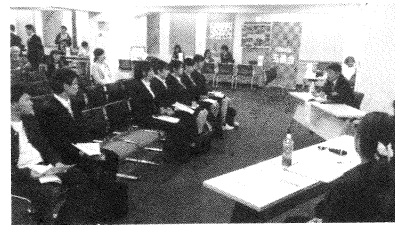
大学や専門学校等の養成校からすると少子化の影響から学生たちの就職は売り手市場となっております。腕を組み胡坐をかいて待っていても質の高い障害児者福祉人材を確保し増やすことができません。

今回の経験と反省から、障害児者福祉の仕事をアピールし続ける機会が必要であることを感じる事ができた企画でした。そのことを受け当委員会では、直接学生たちに語りかけることができるような様々な企画を立案し実施していくことにマイナスはないと考えております。

最後に、ご協力いただきました法人及び事業所の皆様、また、今回参加することができなかった法人及び事業所の皆様、今後ともよろしくお願い申し上げます。

次回のフェアは平成 30 年 4 月 22 日（日）に開催いたします。

障害児者福祉を共に盛り上げて参りましょう。



編集
後記

当協会 HP でも県知協ニュースや最新のお知らせをご覧になれますので是非ご参照ください。

<http://www.hyogo-kenchikyo.or.jp/>

研修やイベントなど当協会 HP に掲載をご希望される場合は県知協事務局までお問い合わせください。

（広報委員長 澤村）